

# 3 - 参考 1

## 「遺伝子組換え農作物を市民が考える会議」の概要

### 1 市民パネリスト

< 横浜 > 15名（応募者数83名）

選出方法：家庭にいる女性に重きを置いて厳正に抽選

構成：男性5名、女性10名（うち主婦9名）

30歳代 = 2名 40歳代 = 5名 50歳代 = 5名 60歳代 = 3名

< 仙台 > 16名（応募者数51名）

選出方法：農業者に重きを置いて厳正に抽選

構成：男性7名（うち農業者6名）、女性9名（うち主婦6名）

40歳代 = 5名 50歳代 = 8名 60歳代 = 3名

### 2 会議の概要

本年度は、大都市圏の横浜と農村部を後背地に有する仙台の2会場において、それぞれの会議における参加市民パネリストの募集、抽選を行い実施した。

横浜は全6回（延べ6日間）の会議を、仙台は全2回（延べ5日間）の会議をそれぞれ開催した。

各会議とも専門家から遺伝子組換え農作物に関する基礎知識の説明を受け、市民パネリストと専門家との双方向のコミュニケーション（質疑応答意見交換等）を行い、その後パネリストによる議論を重ね、「市民の提案」としてとりまとめられた。

「市民の提案」は、様々な視点から意見が出された中で、共通的な考えを探りながら提案としてまとめるべき項目を定め、その項目における問題点を提示し、それに対する提案を行うという形で整理されている。